

盲ろう者支援 と バリアフリー

東京大学先端科学技術研究センター
大河内 直之

1. 大河内プロフィール

- 大河内 直之 (オオコウチ ナオユキ)
- 1973年4月26日生まれ、43歳
- 先天性緑内障、4歳で失明、現在全盲
- 東京大学先端科学技術研究センター
バリアフリー分野 特任研究員
- NPO法人バリアフリー映画研究会 理事長
- 24年前より盲ろう者の通訳・介助員として活動

2. 大河内がこれまで携わってきた仕事

- 視覚障害者のリハビリテーション非常勤指導員
→中途失明者に点字やパソコンの使い方の使い方を指導
- 点字の出版
→点字書籍等を製作
- 視覚障害者向け音声読書機の開発
→2次元コードという技術を使った
視覚障害者向け音声読書機を開発



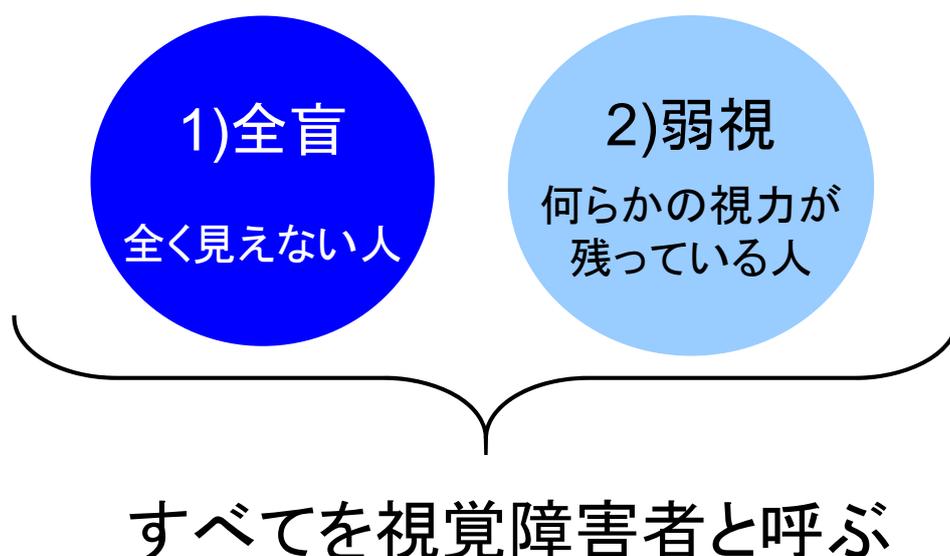
3. 現在携わっている仕事

- 盲ろう者向けの支援技術に関する研究
- 視覚障害者向けの支援技術に関する研究
- 福祉のまちづくりに関する研究
- 映画のバリアフリー化に関する研究
- 異なる障害を持つ人同士のコミュニケーションに関する研究

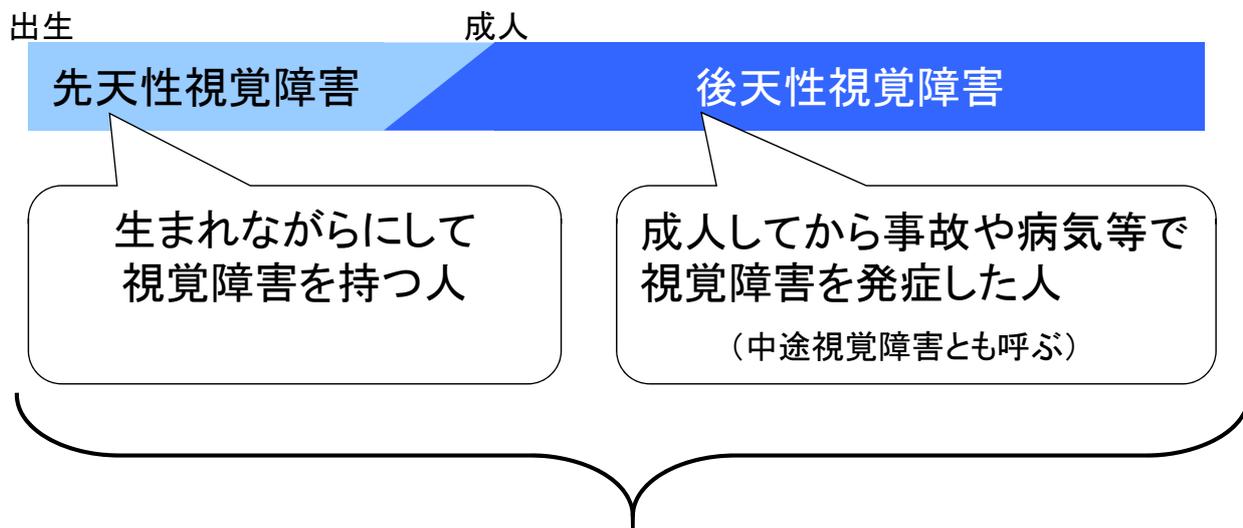
4. 視覚障害とは？

- 視力に何らかの障害を持つ人
- 日本における視覚障害者数：31万6千人
平成23年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）
http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/seikatsu_chousa.html
- しかし、31万6千人は障害者手帳を所持している人の数
- 手帳の交付が受けられないが、加齢や病気等で視力が低下している人を含めるとその数は3倍とも言われる

5. 視覚障害の種類

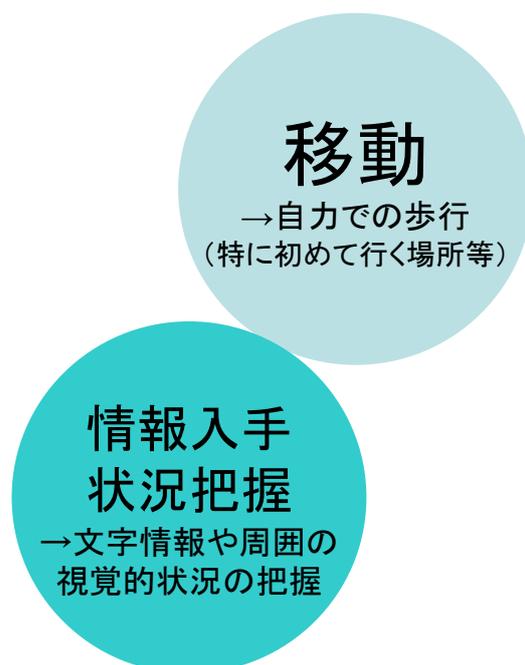


6. 視覚障害の受障時期による違い



先天性と後天性では
不便さやニーズが全く異なる

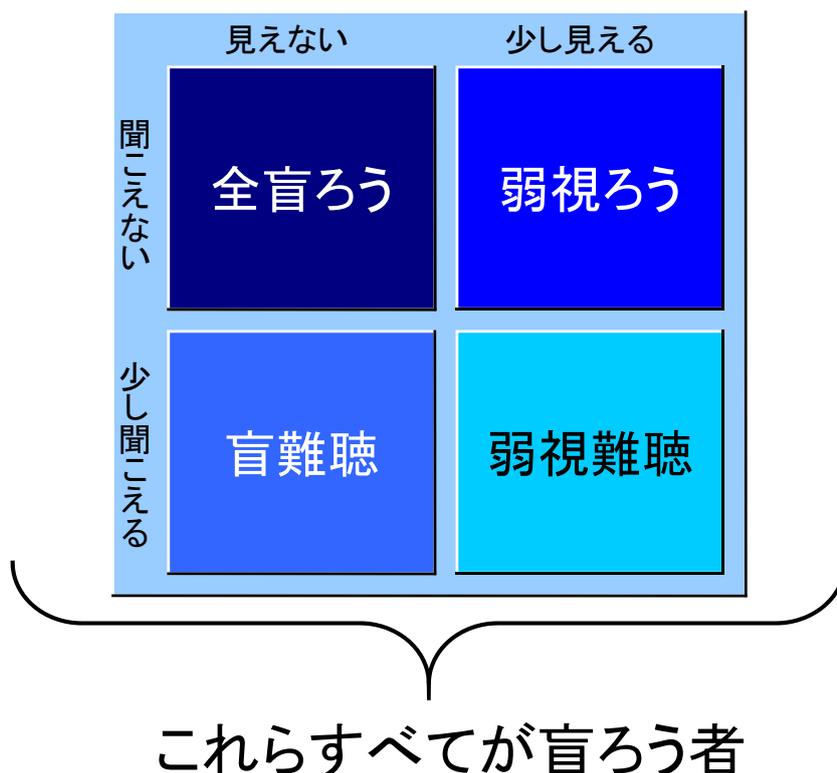
7. 視覚障害による不便



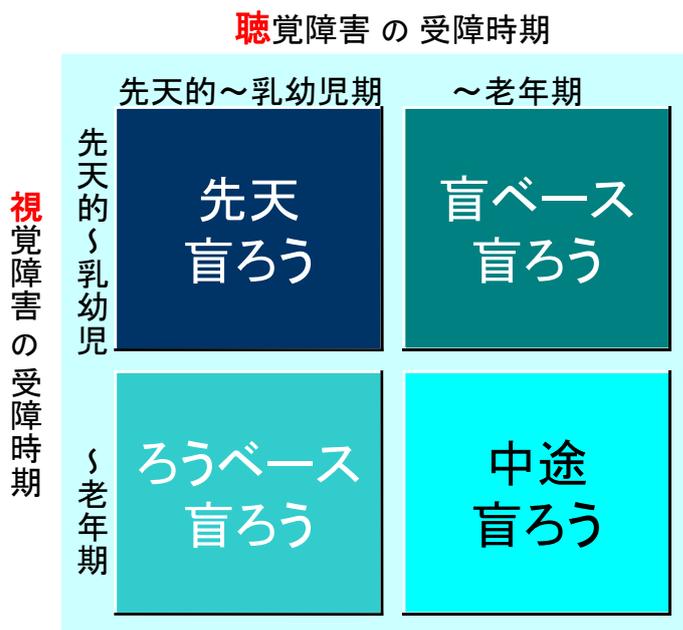
8. 盲ろう者とは

- 視覚と聴覚に障害を併せ持つ人
- 日本における盲ろう者数(推定手帳交付盲ろう者数):
14,329人
平成24年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業
「盲ろう者に関する実態調査」
- 通訳・介助者派遣事業登録盲ろう者数:940人
平成24年度社会福祉法人全国盲ろう者協会「盲ろう者向け通
訳・介助員派遣事業」「同養成・現任研修事業」実態調査
- 実際の盲ろう者の生活実態はほとんどわかって
いない

9. 障害の程度



10. 受障時期による違い



11. コミュニケーション方法

<p>手話 (触手話・弱視手話)</p> 	<p>指点字</p> 	<p>指文字 (日本語式・ローマ字式)</p> <p>No Image</p>
<p>手書き文字</p> 	<p>筆記 (点字・普通文字)</p> <p>No Image</p>	<p>音声</p> 

12. 盲ろう者の3つの不便



独力で日常生活を送ることが極めて困難



「盲」+「ろう」の単なる重複障害ではなく、「盲」×「ろう」の独自の障害

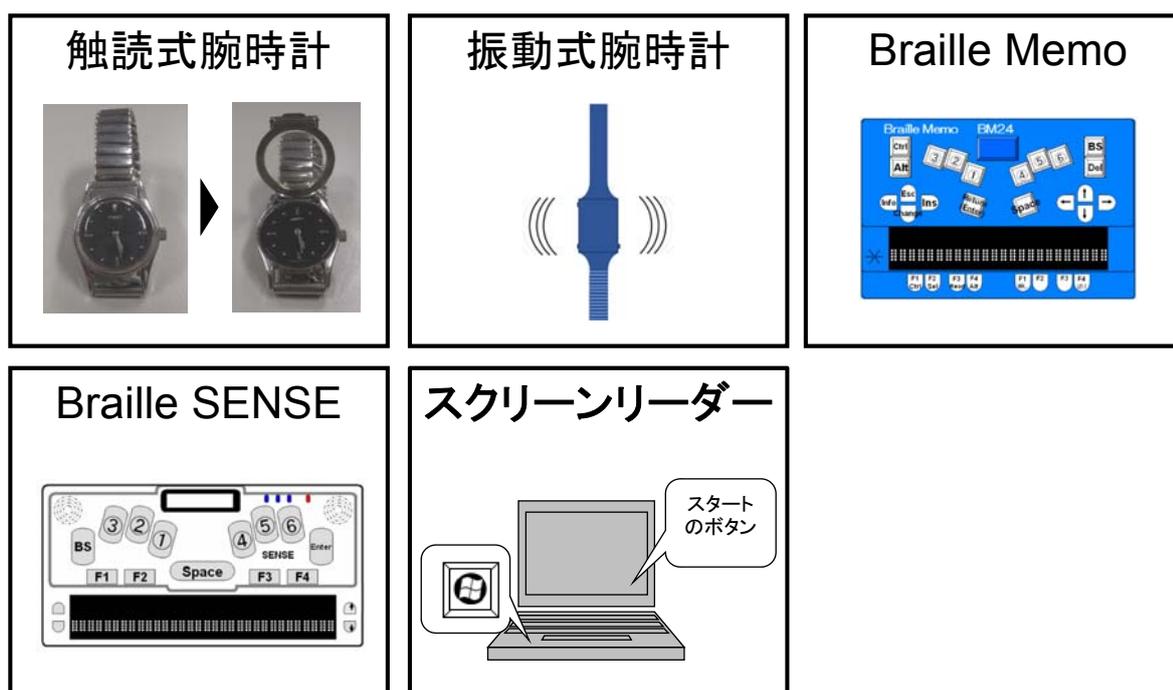
13. 盲ろう支援の実態

- 通訳・介助員派遣制度が数少ない盲ろう者向けの福祉制度
- しかし、通訳・介助員の利用時間数には地域格差が大きい(年間 1,000 時間 ~ 年間 100 時間未満)
- 盲ろう者向けの教育、リハビリテーション、職業訓練等は確立されていない
- そもそも日本には「盲ろう」という障害区分がなく、法的にも社会的にも独自の障害として位置づけられていない

14. 盲ろう者向け支援技術の実態

- 盲ろう者向けの支援機器はほぼ存在しない
- 視覚障害者向けあるいは聴覚障害者向けの一部の機能を利用しているのが実情
- しかし、支援機器の利用により、盲ろう者が独力でできることが増加
- プライバシーの保障も可能

15. 盲ろう者が利用する主な支援機器



16. 盲ろう者団体

○ 社会福祉法人 全国盲ろう者協会

→盲ろう者のための日本で唯一の社会福祉法人

<http://www.jdba.or.jp/>

○ 各地の当事者団体「盲ろう者友の会」

→現在46都道府県に存在

<http://www.jdba.or.jp/link/db01.html>

○ 盲ろう者関連団体

→支援センター、作業所、教育研究会、盲ろう児とその親の会、友の会連合等

<http://www.jdba.or.jp/link/db02.html>

17. 盲ろう者の啓発活動

以下のような働きかけを行政等を実施

○ 盲ろう者の掘り起こし

○ 通訳・介助員派遣事業の時間数の拡大

○ 盲ろう障害の法的な定義の確立

○ 日本版「ナショナルヘレン・ケラーセンター」の創設



個人情報保護や予算等のハードルが高く
なかなか取り組みは進んでいない

18. 最近の盲ろう者啓発活動

- 現在、盲ろう者のドキュメンタリー映画を製作中
- 一人でも多くの人に盲ろう者の存在を知って頂くのが目的
- テレビの報道番組などには取り上げられにくい盲ろう者の日常を中心に記録
- 今年度末完成予定
- 来年度以降、一般上映に加えて自主上映等幅広く上映活動を実施

19. 盲ろう者と映画の接点

- 私が8年前より携わる「バリアフリー映画研究会」がきっかけ
- 3年前に韓国の盲ろう者を取り上げた映画「渚のふたり」の上映活動を機に盲ろう者との関わりを強める
- 昨年度は「盲ろう者と楽しむバリアフリー映画上映会」を研究会主催にて実施
- 今年度は日本各地の盲ろう者を訪ね歩き映画として記録

20. バリアフリー映画研究会の活動

- 主に単独の視覚・聴覚障害者を対象に字幕、音声ガイドを媒介とした映画のバリアフリー化を推進
- 映画製作者、研究者、福祉関係者、当事者が主要メンバー
- 映画を製作段階からバリアフリー化すること及びそれをスタンダードにしていくことが目的
- スマートフォンやメガネ型端末を利用した新システム「UDCast」によるバリアフリー映画の普及活動に取り組む
- 現在、一般の映画館で音声ガイドや字幕が利用できる映画が上映中

21. バリアフリー映画及びUDCastの体験

- バリアフリー映画体験
- UDCastの体験

22. 私が盲ろう者と関わる経緯

- 高校の頃より自分とは異なる障害や属性を持つ人との関わりに興味があった
- 大学生のときにろう、盲、肢体障害等多様な障害者が集まるサークルに参加
- 特にろう者及び手話との出会いによりコミュニケーションの多様性に魅了された
- さらにサークル活動を通じて盲ろう者と出会い現在の活動が始まった

23. 私が盲ろう支援を続ける理由

- 当初は自分が支援を受ける立場から支援する立場になることに一種の優越感を感じていた
- 通訳・介助をする中で単なる支援者ではなく、当事者でもない「半当事者」という立ち位置を自覚するようになった
- 「見えない」という自分の障害を改めて見つめるようになった
- 自分は「盲ろう者に救われている」と感じる瞬間が多くなった

24. 「見えない」という自分の障害について

- 見えないことは不便ではあるが不幸ではない
- たとえ医学が発達したとしても見えるようになりたいとは正直思っていない
- 見えない世界が私の「普通」であり
見えないことには意味があると思っている

25. 連絡先

* ご意見、ご質問などがありましたら
下記までご連絡ください。

大河内 直之(おおこうち なおゆき)

E-mail: okochi@bfp.rcast.u-tokyo.ac.jp

住所: 〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1

東京大学先端科学技術研究センター 福島研究室

Tel: 03-5452-5067(直通) Fax: 03-5452-5068